

高齢者における感動体験の想起による気分変化の検討

—想起される感動体験の性質にも着目して—

Effects of experiences accompanied by "kandoh (the state of emotionally moved)" in old age:
Focus on mood change and the characteristic of kandoh

栗田 祐揮

KURITA Yuuki

立命館大学応用人間科学研究科

(Graduate School of Science for Human Services, Ritsumeikan University)

Key words: old age, kandoh, mood change

目的

我々は感動することで、動機づけをはじめとする様々な心理的効果を得ることが見出されている(戸梶, 2004)。また、過去に体験した感動を想起することによっても、その効果が再度強化されるとされている。しかし、その検討をした先行研究は見られない。また、先行研究の調査対象を高齢期(65歳以上)に設定したのも見られない。よって、本研究では、従来の感動研究において調査対象とされていなかった高齢者を対象に、感動体験の想起時における気分変化、および想起された感動体験の性質について検討することを目的とした。

方法

調査対象者 立命館大学高齢者プロジェクトに参加する男女36名(男性10名,女性26名,平均年齢73.4歳,SD=6.34)であった。

要因計画 2(想起エピソード; 感動体験, 楽しかった体験)×2(気分変化; 想起前, 想起後)の2要因混合計画とした。

使用尺度 想起前後の気分変化を比較するため、多面的感情状態尺度(Multiple Mood Scale: MMS)・短縮版(寺崎・岸本・古賀, 1991)を使用した。

手続き 対象者を実験群と対照群に分け、実験群には感動体験を、対照群には楽しかった体験を、インタビュー形式で想起させた。想起前後にはMMSへの回答を求め、想起前後の気分状態を測定した。1人当たり所要した時間はおよそ40分程度であった。

結果

分析1 MMS下位因子の各得点とSDを算出し、2要因混合計画の分散分析を行い、体験想起前後で得点差が見られるかを検討した。その結果、「抑うつ・不安」($F(1,33)=10.00, p<.05$)、「活動的快」($F(1,33)=5.69, p<.05$)、「親和」($F(1,33)=6.97, p<.05$)において、想起前後の主効果が見られた。以上の結果から、「抑うつ・不安」気分が想起後で減少したことが示された。次に、快感情においては、「活動的快」「親和」気分が、いずれの群においても、想起した後に高まったことが示された。しかし、実

験群と対照群において、特に実験群特有で変化した気分は見られなかった。

分析2 想起された感動体験を、KJ法を用いて、「内容」、「体験時期」、「理由」、「自身の変化」ごとにカテゴリ化した。「内容」は、子どもや孫に関するもの、闘病体験に関するものが多く想起された。「体験時期」は、比較的最近のものとして10代~20代の若い時に体験されたものが多く想起された。「理由」は、意外性・発見など驚きを伴うもの、他者の支えや苦勞が報われたなど、自身の苦勞を伴うものが想起された。「自身の変化」については、①動機づけ、②認知的枠組みの変更(思考転換、視野拡大など)、③他者志向・対人受容に関する変化が見られた。

考察

本研究結果から、感動体験の想起により、他のポジティブな体験を想起した場合と同様、不快感情の緩和、快感情の高揚が起こることが明らかになった。これはポジティブな自伝的記憶の想起によりネガティブ感情が緩和される感情制御機能が働いたと考えられる。しかし、感動体験の想起によって、動機づけに関する気分が大きく高揚するなど、特徴的な変化が見られなかった。この点については、実験計画の見直しを測り、再度検証する必要がある。高齢期において想起される感動体験の性質としては、想起時期から近い体験と若い時期の体験が多く想起されることが挙げられる。また、孫の誕生が感動体験として多く想起された。高齢期における社会的役割の変化として、祖父母役割がある。この役割の受容に、感動が関わっている可能性が示唆された。さらに、入院・闘病などネガティブな体験を、肯定的に意味づけるプロセスにも、感動が関係している可能性が示唆された。

引用文献

- 寺島正治・岸本陽一・古賀愛人(1991). 多面的感情状態尺度・短縮版の作成 日本心理学会第55回大会発表論文集, 435.
戸梶 亜紀彦(2004). 『感動』体験の効果について一人が変化するメカニズム— 広島マネジメント研究, 4, 27-37.